

2024.9.28 sat
at NAKANO ZERO

主催：一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ

共催：なかのZERO指定管理者

助成：  文京区庁

文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

後援：一般社団法人全日本吹奏楽連盟

東京都吹奏楽連盟

公益社団法人日本吹奏楽指導者協会

公益財団法人日本音楽教育文化振興会

一般社団法人日本管打・吹奏楽学会

一般社団法人日本吹奏楽普及協会

日本コロムビア株式会社

株式会社テレビマンユニオン



<https://www.tkwo.jp/>



Tokyo Kosei Wind Orchestra

Subscription Concert
2024-2025

#166

Takeshi Ooi
Conductor

PROGRAM | プログラム

朝鮮民謡の主題による変奏曲／J.B.チャンス

[約7分]

Variations on a Korean Folk Song／John Barnes Chance

交響曲第1番 作品35／J.バーンズ

[約31分]

First Symphony／James Barnes

第1楽章	アレグロ ヴィヴォー - マ・ノン・トロッポ	I. Allegro vivo - ma non troppo
第2楽章	レント - フレービレ	II. Lento - flebile
第3楽章	スケルツォ：アレグロ・モデラート	III. Scherzando : Allegro moderato
第4楽章	パッサカリア：アダージョ・マエストーソ	IV. Passacaglia : Adagio maestoso

休憩 Intermission [20分]

交響組曲／C.ウィリアムズ

[約14分]

Symphonic Suite／Clifton Williams

第1楽章	イントラダ	I. Intrada
第2楽章	聖歌	II. Chorale
第3楽章	行進曲	III. March
第4楽章	古代舞曲	IV. Antique Dance
第5楽章	祭り	V. Jubilee

シンフォニア／周天

[約21分]

Sinfonia／Zhou Tian

第1楽章	ノワール	I. Noir
第2楽章	トランジット	II. Transit
第3楽章	アリオソ	III. Arioso
第4楽章	D-O-N-E	IV. D-O-N-E

❗ 注意

- ・本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合があること、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承ください。
- ・ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- ・演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮ください。
- ・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

本公演に関する
アンケートへ
ご協力ください。



PROFILE | 指揮者プロフィール

常任指揮者

大井 剛史

Takeshi Ooi,
Conductor



©Ayane Shindo

2024年4月、東京佼成ウインドオーケストラ常任指揮者に就任。

17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。東京藝術大学指揮科を卒業後、同大学院指揮専攻修了。若杉弘、岩城宏之の各氏に指導を受ける。1996年安宅賞受賞。スイス、イタリア各地の夏期講習会においてレヴァイン、マズア、ジェルメッティ、カラブチェフスキーの各氏に指導を受ける。

2007～2009年チェコ・フィルハーモニー管弦楽団で研修。2008年アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールで第2位入賞。在学中より東京二期会、新国立劇場などのオペラ公演で副指揮者をつとめ、2002年「ペレアスとメリザンド」(ドビュッシー)を指揮してデビュー。その後はオペラのほかバレエ、ミュージカル、日本舞踊との共演など多くの舞台公演を指揮。

仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者(2000～2001)、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者(2009～2016)、山形交響楽団指揮者(2009～2013)、同正指揮者(2013～2017)、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者(2014～2024)を歴任。このほか全国の主要オーケストラを指揮している。

レパートリーは極めて広く、オーソドックスな管弦楽／吹奏楽の作品を中心として、現代音楽の初演、ゲーム音楽、映画音楽、ポップスなどありとあらゆる音楽を手がける。トーク付きのコンサート、また子供のためのコンサートなどを通じて、より多くの方々に音楽に親しんでいただくことに情熱を注いでいる。

東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師(吹奏楽)、尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。

オストウォルド賞について

中橋愛生 (TKWO楽芸員)

オストウォルド賞は、アメリカ吹奏楽指導者協会(アメリカン・バンドマスターズ・アソシエーション/略称:ABA)による歴史ある賞で、現代に至るまで数々の名作を世に送り出してきた、世界で最も権威ある吹奏楽のための作曲賞の一つ。そもそもABAは1929年にエドウィン・フランコ・ゴールドマンが吹奏楽の地位の向上を目指して設立した団体だ。その活動内容は多岐にわたるが、創設当初より大きな命題の一つとして挙げられていたのが「吹奏楽のための新しい優れたレパートリーの創出」だ。実際、グレインジャー『リンカンシャーの花束』やホルスト『ハーマスミス』といった吹奏楽史に輝く名作がABAの総会において初演されており、着実に実績は重ねられた。

それと並行し、ABAの設立当初よりコンサートの収益を積み立て、新作に賞金を与えることで作曲の奨励を行うことも計画されていた。たびたび実行されていたものの資金難で継続が難しかったところ、バンドのユニフォームを制作していたオストウォルド社からの援助で毎年開催が可能となり、1955年に「オストウォルド賞」が設立された。新しく作曲された吹奏楽作品のなかで傑出したものであると認められた楽曲に贈られるこの賞は、賞金のみならず多大な名誉を作曲者にもたらすこととなる。1956年、集まった12曲の中から第一回受賞の栄誉を賜ったのはクリフトン・ウィリアムズ『ファンファーレとアレグロ』。現代でも演奏され続けているこの楽曲への授賞式(3月10日)の直前、スポンサーであるアーネスト・オストウォルドも、創設者のゴールドマンも、奇しくも同じ2月21日に病没している。彼らがこの賞に吹奏楽の未来を託したであろうことは想像に難くない。

その後、オストウォルド社は1981年までで資金提供を辞め、楽器メーカーC.G.コーン社、全米バンド楽器製造社協会がスポンサーを引き継いだ後、1985年からはABAが資金運営を担っている。1991年から1997年までは隔年で賞を与えて受賞者に新作を委嘱し翌年初演するスタイルに変更、1999年からは旧来の方式に戻すも2003年に休止、2005年からは隔年開催となっている。大きく方針が変わったのは2011年からで、賞の協賛にスーザ財団が加わり、名称も「スーザ／オストウォルド賞」と変更される(スーザはABA創設時の名誉会長)。これ以降、「教育用低グレード作品」と「高グレード作品」が交互に募集されるようになり、現在に至っている。なお、2011年に初の低グレード作品で受賞したのは、日本人初の受賞作となった後藤洋『ソングズ』だ。

まだ吹奏楽が野外で演奏される実用音楽が中心だったおよそ100年前。そこから多くの先達が吹奏楽の未来を信じ、紡いできた賞。様々な時代の在り方、数知れぬ想いが、受賞作の背景にある。本公演からは、「その先」にあるものも聞こえてくるだろう。

受賞作品

1956	C.ウィリアムズ	ファンファーレとアレグロ
1957	C.ウィリアムズ	交響組曲
1958	J.M.クイン	国の肖像
1959	M.ウィード	序奏とスケルツォ
1960	F.ミュラー	序曲ト調
1961	J.W.ジェンキンス	カンバーランド・ギャップ序曲
1962	F.ヴェルケ	吹奏楽のための小協奏曲
1963	F.H.アッシュ	演奏会用組曲
1964	R.ジェイガー	吹奏楽のための交響曲
1965	F.ベイヤー	吹奏楽のための序曲
1966	J.B.チャンス	朝鮮民謡の主題による変奏曲
1967	L.ウェイナー	ダエダリック交響曲
1968	R.ジェイガー	ダイヤモンド・ヴァリエーション
1969	R.ウィリス	アリアとトッカータ
1970	F.タル	トッカータ
1971	K.クレーガー	吹奏楽のためのディベルティメント
1972	R.ジェイガー	シンフォニエッタ
1973	R.ニクソン	フェスティヴァルファンファーレ マーチ
1974	J.スクレイター	ヴィジョンズ
1975	R.パネリオ	ジュビローン
1976	L.ヤンコフスキー	死の縛め
1977	W.H.ヒル	神聖な舞曲と世俗的な舞曲
1978	J.バーンズ	交響曲第1番
1980	J.カーナウ	ムタンザ
1981	J.バーンズ	死の幻想
1982	D.R.ホルジンガー	偏在する軍隊
1983	M.メイルマン	高揚
1984	J.カーナウ	ユーフォニアムとウィンド・アンサンブルのための交響的変奏曲
1985	J.ダウニング	管、打楽器の為の交響曲
1986	D.R.ホルジンガー	春になって、王達が戦いに出るに及んで

1987	D.サーター	シナージスティック・パラブル(神人協力説の寓話)
1988	D.ウィルソン	ピース・オブ・マインド
1989	M.メイルマン	彼の地に去ったかけがえのない友たちへ
1990	G.ユーツ	花火
1991	T.マー	空高く舞う鷹
1992	T.マー	エンデュランス*
1993	R.ネルソン	パッサカリア:B-A-C-Hによるオマーージュ
1994	R.ネルソン	シャコンヌ(イン・メモリアム...)*
1995	A.アイアナコーン	漂流
1996	A.アイアナコーン	偉大な国への讃歌*
1997	D.ウェルチャー	ザイオン
1998	D.ウェルチャー	サーキュラー・マーチ*
1999	D.グランサム	幻想的変奏曲
2000	D.グランサム	サザン・ハーモニー
2002	P.グレイアム	ハリソンの夢
2005	J.マッキー	レッドライン・タンゴ
2007	M.ドアティ	レイズ・ザ・ルーフ
2009	J.マッキー	オーロラは目覚める
2011	後藤 洋	ウィンド・アンサンブルのためのソングズ
2012	M.ガンドルフィ	栄華と瞑想
2013	A.ベリン	ベイル・ブルー・オン・ディープ
2014	S.ブライアント	アルト・サクソフォン協奏曲
2015	A.ベリン	オンリー・ライト
2016	P.ドゥーリー	マスクとマシーン
2017	C.ローリー	サイプレス・プレリユード
2018	J.スティブンソン	交響曲第2番「ヴォイシズ」
2019	D.ビーデンベンダー	アंकワイエット・アワーズ
2020	E.サントス	ザ・シアー
2021	P.ミーチャン	パーベチュア
2022	周天	シンフォニア
2023	A.D.パーキンス	チューバー組曲

* 前年度受賞者による委嘱作品

PROGRAM NOTES

曲目解説—中橋愛生 (TKWO楽芸員)

※本文中の「東京佼成ウインドオーケストラ」は「TKWO」と略しました。

ジョン・バーンズ・チャンス作曲

朝鮮民謡の主題による変奏曲

ジョン・バーンズ・チャンスは1932年生まれのアメ리카の作曲家。高校生の頃より作曲に関心をもち、高校3年生のときには初の管弦楽のための交響曲を作曲し母校のオーケストラによって初演されたという。その後、テキサス大学に進学すると後述するクリフトン・ウィリアムズらに作曲を師事し、全学生で最も優秀な者に贈られるカール・オーウェン賞を得て学士号および修士号を取得、その後ケンタッキー大学で教鞭を取りつつ管弦楽や合唱・室内楽など多岐に渡る作品を発表していた。フォード財団から奨学金を授与されるなど将来を嘱望されていたが、1972年に自宅裏庭のフェンスに触れて感電死した。チャンスは高校生の頃より打楽器奏者としても活躍しており、大学卒業後はオースティン交響楽団やアメリカ陸軍第4軍楽隊などプロの管弦楽や軍楽隊でもティンパニを担当していた。チャンスの中で打楽器が活躍することが多いのは、それ故なのであろう。

そんなチャンス代表作とも言えるのが、1966年にオストウォルド賞を受賞したこの曲。そして、おそらく全受賞作のなかで最も知名度が高いのも、この曲だろう。この曲は、タイトル通り朝鮮民謡「アリラン」を主題とした変奏曲。チャンスが「単純に聞こえるが実は複雑である旋律」と語るこの民謡は、アリラン峠(伝説上の存在で、現在の同峠は後に命名されたと考えられる)を越えて去っていく大切な人を見送る歌詞で、南北朝鮮の民族団結の象徴としても歌われることが多い。その起源は定かではなく、地方によって様々な違いがある。とにかく、チャンスはこの民謡を朝鮮戦争後の1958年から59年にかけてアメリカ陸軍第8軍楽隊に打楽器奏者・編曲者として赴任したソウルで耳にし、それを基に作曲したという。作曲年は記録が残っていないが、初演は1966年のオストウォルド賞受賞記念として総会場で成された、となっている。当時のオストウォルド賞は未発表で委嘱によらない作品のみが応募可能だった(現在は発表済みの作品とされている)ため、自発的に、あるいは賞に応募するために作られたのであろう。なお、スコアには「To Linda」と記されており、夫人へ献呈されている。

曲は序奏と5つの変奏で構成されており、それらはほぼ切れ目なく演奏される。

序奏では、まずクラリネットの低音域によってアリランが静かに提示される。

第1変奏は、木魚による五音音階の模倣と、ベルトーンによる旋律が印象的。

第2変奏は、三拍子の叙情的変奏。オーボエ独奏で開始される物憂げな旋律が様々な楽器によって歌い継がれる。

第3変奏は、一転して行進曲風の勇壮な変奏。

第4変奏は、ゆったりとしたコラル。単純化された旋律に多彩な和音が付けられる。

第5変奏は、「Con Islancio」(衝動的に)。打楽器の導入に続き、鍵盤打楽器と木管がカノン風に堆積してゆく。やがて金管が雄大にアリランの主題を奏し、壮大に曲を閉じる。

ジェイムズ・バーンズ作曲

交響曲第1番

ジェイムズ・チャールズ・バーンズは1949年生まれのアメ리카の作曲家。カンザス大学で学び、1975年に修士号を取得した。卒業後、1978年に今回演奏される『交響曲第1番』で、1981年に『死の幻想』でオストウォルド賞を計2回受賞、さらに1982年には『交響曲第2番』で吹奏楽のレパートリー向上に最も貢献した作曲家に贈られるニール・チョス賞を受賞し、若くして吹奏楽分野での評価を確かなものとしている。40年以上の長きにわたる2015年まで母校であるカンザス大学で教え、現在は名誉教授の地位にある。日本とも馴染みが深く、TKWOと自作自演による3枚のCD録音を行ったほか、プロ・アマを問わず日本のバンドとの交流を持ち、作品を提供したりもしている。

作品は非常に多い上に作風も幅広く、有名なものだけでも『アルヴァマー序曲』のようなスクール・バンド用の平易なものや、『交響曲第3番』のように新古典主義に立脚した堅実な大曲、さらには『祈りとトッカータ』のような現代語法を試みた作品と多種多様である。そんなバーンズにとっても「交響曲」という分野は他の多くの作曲家と同様に特別の存在だろう。現在でも旺盛な創作活動を続けているバーンズだが交響曲は既に完成した9曲で終わりにすると宣言している。その9作は第4番(管弦楽のために作られ第三者により吹奏楽編曲)以外は吹奏楽のために作られた大曲揃いであり、音楽的充実度も極めて高い。その初めての交響曲である今回の上演曲『交響曲第1番』は、1974年に大学院の修了作品として作られた。編成的にも音楽的にも当時の吹奏楽作品として

は異例の規模の大きさを持っており、バーンズとしても次に連なる作品を書ける自信が無かったため、当初は「第1番」ではなく、単に『交響曲』として発表された。1976年にロバート・フォスター指揮のカンザス大学シンフォニック・バンドによって初演された後、バーンズは思い立ってオストウォルド賞に応募したところ、前述の通り見事に受賞作となった。しかしながら、その受賞記念としてABA総会でノースウェスタン・ウインド・アンサンブルが演奏した際は「2楽章・1楽章」の順で2つの楽章のみが演奏され、曲の長さについて否定的な意見が寄せられたという。その後、バーンズはいくつかの出版社に楽譜の出版を持ちかけるも、その規模や内容の高度さから断られ続け、いつしか「幻の作品」として封印されることとなった。そのまま時は流れ、2022年、オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラから翌年に楽団創立100周年を迎えるのを記念し9曲あるバーンズの交響曲全てをチクルスとして演奏、録音させてほしいという話が持ちかけられる。これまでも『交響曲第3番』を世界初演するなどバーンズと縁の深かった同団のために蘇演を決意、初版では完成度に不満の残っていた第3楽章を中心に改訂を加えるなど全曲にわたって修正した版を作成した。その改訂版世界初演はバーンズ自身の指揮によって成される予定であったが健康上の理由から来日が叶わず、バーンズが信頼を寄せて指名したポール・ポピエルの指揮により、2023年9月16日に行われた。なお、同年12月にオオサカ・シオン・ウインド・オーケストラはシカゴで行われたミッドウェスト・クリニックにて、バーンズの指揮で第4楽章のみを再演している。

曲は全部で4つの楽章から成る。第1楽章はソナタ形式、第2楽章はユーフォニアムのソロから開始される抒情的な緩徐楽章、第3楽章は打楽器のリズムが印象的だが途中でコラルも挟み静かに結ばれるスケルツォ楽章、ティンパニによるカデンツァを経てアタッカで入る第4楽章は18の変奏を持つパッサカリア、となっている。形式的には古典的な様式を踏襲している訳だが、一聴して分かるように調性と無調、陰と陽、緩と急が交錯する多層的な響きが用いられており、若きバーンズの意欲的なモダニズムが発揮されている。

クリフтон・ウィリアムズ作曲 交響組曲

ジェイムズ・クリフトン・ウィリアムズ・ジュニアは、1923年に生まれたアメリカの作曲家。中学生の頃から音楽に関心を持ち、ピアノや理論などを誰に習った訳でもなく作曲や編曲を試みていたと

いう。高校生になると指導を受けるようになり、管弦楽のための交響曲や吹奏楽のための行進曲を作曲、自身の指揮で発表するなどしている。高校卒業後、ルイジアナ工科大学に1年間通った後、第二次世界大戦のため1942年にアメリカ陸軍航空隊(現:空軍)の軍楽隊に入隊、作曲を盛んに行うようになる。終戦後の1947年にルイジアナ州立大学でヘレン・ガンダーソンに師事し学士号を、1949年にイーストマン音楽学校でバーナード・ロジャースとハワード・ハンソンに師事し修士号を取得、卒業したその年からテキサス大学オースティン校で教え、1966年からマイアミ大学音楽学部で亡くなるまで理論・作曲科の主任教授を務めた。その間、ホルン奏者として活動していた時期もある。海外からの評価も高く、ペルーのリマ国立音楽院から名誉博士号が贈られるなどしていたが、1976年、53歳になる数週間前に肺癌のため死去した。

室内楽や管弦楽を中心に作品を発表していたウィリアムズが公的に初の吹奏楽作品を発表したのは、前掲の1956年の第一回オストウォルド賞受賞作となった『ファンファーレとアレグロ』。1954年に作曲したものの「演奏が難しい」とされなかなか発表できずにいたところに賞を知り応募、受賞したことでABAの総会で初演された。これに気を良くしたのか、ウィリアムズは最初からオストウォルド賞に応募するための新作を直ちに制作、見事に2年連続の受賞を果たす。その受賞作が今回演奏される『交響組曲』だ。創設されて間もない賞を連続で同一人物に授けるのは躊躇したのではないかと推測するが、それを問題としないほどの完成度が本作にはある。受賞したその年のうちに楽譜が出版された、というのもそれを裏付けている。この受賞はウィリアムズのキャリアにも大きな変化をもたらす。ウィリアムズが1964年に賞のスポンサーであるオストウォルドに宛てた手紙には「2年連続で受賞したことがテキサス大学での職位向上につながったのでは」と記されている。これ以後、ウィリアムズは吹奏楽作品を多く手がけるようになる。また、ウィリアムズは自身の門下生たちにも積極的に吹奏楽を書くように勧めていたといい、前述のチャンスのほか、ウィリアム・フランシス・マクベスもその薫陶を受けている。また、1967年にオストウォルド賞を得ているローレンス・ウェイナーもウィリアムズの門弟で、おそらくチャンスとウェイナーはウィリアムズの働きかけで賞に応募したのであろう。ウィリアムズが吹奏楽に肩入れをしていたのは、マクベスがウィリアムズの亡くなった直後に音楽雑誌に寄稿した文章によると「吹奏楽を他の全ての音楽と同等の地位まで引き上げるという夢があった」からだという。自身の作風はやや保守的と評されることが多いが、ウィリアムズは「吹奏楽が未達の領域であり、どこかに辿り着く可能性が高い」と感じ、いわゆる現代音楽の入り口として吹奏楽が機能することを期待していた。また、「国内に管弦楽団はほんの一握りしかないが、フットボールのある村には必ず吹奏楽団がある」として、多くの聴衆に向けて作曲する機会が得られる、ということにも魅力を感じたと語っている。ウィリアムズが現代アメリカのオリジナル作品の地平を拓いた存在とし

て扱われているのは、数々の優れた作品のみならず、そうした思想や影響力によるところも大きい。

曲は「イントラダ(序章)」、「コラル(聖歌)」、「行進曲」、「アンティーク・ダンス(古代舞曲)」、「ジュビリー(祭り)」という5つの曲で構成されており、このうち「イントラダ」と「コラル」は切れ目なく続けて演奏される。それぞれの楽曲は明確な個性・スタイルの違いを持っているが、イントラダ冒頭において提示された動機(4度上行、2度下行、2度上行、2度上行、という5音から成る)を統一原理としている。この動機は「コラル」では第2主題に、「行進曲」ではトリオ・マーチに用いられ、「アンティーク・ダンス」と「ジュビリー」では冒頭主題に用いられる。

周天作曲

シンフォニア

周天(ジョウ・ティエン)は中国系アメリカ人の作曲家。周は1981年に中国の杭州で音楽一家に生まれた。父親がテレビ番組のための音楽の作曲家であったため、その手伝いとして12歳の頃からレコーディングでピアノを弾き、編曲も担当していたという。17歳の時にジャズに関心を持ち、フルートとピアノのための『デュエット』を作曲、同作は1999年にジュリアス・ヘンフィル国際ジャズ作曲賞で入選している。その後、19歳で渡米し本格的に作曲を学ぶ。カーティス音楽院を卒業後、ジュリアード音楽院で修士号、南カリフォルニア大学で博士号をそれぞれ取得した。その間、作曲をジェニファー・ヒグドンやクリストファー・ラウズ、スティーヴン・ハートキなどに師事している。コルゲート大学助教授を経て2016年よりミシガン州立大学准教授、現在は教授を務めている。

これまでにユジャ・ワンといった世界的ソリスト、ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団やロンドン・フィルハーモニー交響楽団などの名門オーケストラに作品が演奏されており、管弦楽や歌曲のための作曲コンクールに数多く入賞している。特にシンシナティ交響楽団の委嘱により2016年に作曲した『管弦楽のための協奏曲』が2018年にグラミー賞現代音楽部門にノミネートされたことで大きく注目を集めた。祖国である中国との結びつきも強く、2008年には2つの中国の伝統楽器と京劇歌手と合唱と管弦楽による『中国大運河』を発表している。また、2019年に北京音楽祭において「アーティスト・オブ・ザ・イヤー」に選出され、2019年から20年にかけては上海交響楽団のアーティスト・イン・レジデンスも務めた。クラシックの分野だけではなく、周は映画や音楽のための音楽も手がけている。特に2009年に中国で制作された映画『永遠の恋人』の音楽は高い評価を

得ている。吹奏楽作品はそれほど多くはなく、2017年にミシガン州立大学の委嘱で作った『炎の花弁』を初として3曲(他編成からの編曲を含めると5曲)ある。今回の演奏曲である『シンフォニア』は現時点で最も新しい吹奏楽作品に位置付けられる。

その『シンフォニア』は、2022年に作られ同年のオストワルド賞を受賞した曲。大学13校の共同委嘱により作曲され、同年4月30日に共同委嘱の中心であったミシガン州立大学とその指揮者ケヴィン・セグトールによって初演された。周の作品は「異なる文化からインスピレーションを得て、それらを融合させる」というのが特徴で、グローバル時代における多文化主義を強く感じさせる。本作も周自身が「身近な文化からインスピレーションを受けて4つの楽章にまとめた」と語っており、その通り、祖国である中国、現在の拠点であるアメリカ、ジャズ、映画、といった、ここまで記した周のルーツや関心が集約された多様性主義的な作品となっている。

第1楽章：ノワール

1940年代から50年代にかけてのフィルム・ノイズを伴うモノクロ映画の映像からインスピレーションを受け、夜に見立てた楽章。

第2楽章：トランジット

「活力と明瞭さを持って」とされた楽章。ラッシュ時のニューヨークの地下鉄のサウンドスケープ。周によると誰かが「ジャズが聞こえたかな?」と聞くと、ニューヨークが「閉まるドアにご注意ください」と答える。

第3楽章：アリオーソ

「安定して」とされた楽章。上海での中秋節の夜を思わせる無言歌が紡がれる。

第4楽章：D-O-N-E

1869年に開通した大陸横断鉄道。その完成を知らせた「D-O-N-E」という単語を示すモールス信号のリズムが展開される。この楽章は、2019年に大陸横断鉄道完成150年を記念して委嘱された管弦楽作品『トランセンド』から引用されている。

PROFILE | 楽団プロフィール



©Atsushi Yokota

東京佼成ウインドオーケストラ

Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年5月「佼成吹奏楽団」として発足し、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称。

2022年4月より「一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ」として活動する

日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。

2024年4月から大井剛史が第6代常任指揮者、中橋愛生が楽芸員に就任。

桂冠指揮者にフレデリック・フェネル、特別客演指揮者にトーマス・ザンデルリンク、

首席客演指揮者に飯森範親を擁している。

吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し

高い音楽芸術性を創出し、多くの人が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。

また多くの録音・メディアを通し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。

MEMBERS | 演奏者名簿

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル

常任指揮者 …… 大井剛史

特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク

首席客演指揮者 …… 飯森範親

楽芸員 …… 中橋愛生

指揮 …… 大井剛史

演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolo …… 丸田悠太

Flutes …… 前田綾子、白石法久、
瀧本実里、常山こずえ (Piccolo)

Oboes …… 宮村和宏^{*}、桜田昌子

EnglishHorn …… 宮川真人 (Oboe)

Bassoons …… 福井弘康^{*}、垣内紀子

ContraBassoon …… 前関祐紀

Clarinet in E♭ …… 松生知子

Clarinet in B♭ …… 大浦綾子、林裕子^{*}、野田祐太郎、
栗生田直樹、河西拓也、北岡羽衣、
木主里絵、草野裕輝、徳武敦

AltoClarinet …… 竹内未緒

BassClarinet …… 石田勝

ContraBassClarinet …… 原浩介 (ContraAltoClarinet)

AltoSaxophones …… 林田祐和^{*} (SopranoSaxophone)、
五十嵐健太

TenorSaxophone …… 中嶋紗也

BaritoneSaxophone …… 栃尾克樹

BassSaxophone …… 田村真寛

Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、
本間千也^{*}、清川大介、箕輪瑠璃子
守岡未央、森山一輝

Horns …… 上原宏、堀風翔^{*}、小助川大河、
小山千鶴、齋藤麻衣

TenorTrombones …… 今村岳志^{*}、安久津理子、福島莉那

BassTrombone …… 久保田和弥

Euphoniums …… 岩黒綾乃、大山智

Tubas …… 池田侑太、山本蒼太

Contrabass …… 前田芳彰

Timpani …… 坂本雄希

Percussion …… 渡辺壮^{*}、和光光世、菊本歩、
久米彩音、古賀優、小林公哉、
柴原誠、武山芳史

Harp …… 安井わかな

Piano …… 小埜寺美樹 (Celesta)

※演奏委員

コンサートマスター

林田祐和

副コンサートマスター

宮村和宏

インスペクター

栃尾克樹

丸田悠太

今村岳志

企画委員

原浩介

役員

理事長 …… 勝川本久

常務理事 …… 八反田弘

専務理事

堀風翔

監事 …… 清水宏一

事務局

事務局長 …… 勝川本久

事務局次長 …… 堀風翔

事務局長補佐 …… 八反田弘

制作

篠原華

大橋証太 (ステージマネージャー)

羽田紀子 (ライブラリアン)

営業

森ゆかり

広報

尾崎真也

荻沼美帆 (チケットサービス)

賛助会・サポーターズクラブ

荻沼美帆

尾崎真也

佐原由起

総務

佐原由起

竹内正道

岩崎友香 (パーソナルマネージャー)

経理

竹内正道

水本孝枝

賛助会員

今後も音楽文化の発展に貢献する
活動を行い豊かな社会を実現するため、
趣旨にご賛同いただける
多くの皆様からの
継続的なご支援が必要です。
賛助会へのご入会をぜひご検討ください。

年会費	賛助会員	維持会員	特別会員
個人	3,000円/1口	10,000円/1口	100,000円/1口
法人	100,000円/1口	300,000円/1口	1,000,000円/1口



詳細はこちら

※会員期間：会費納入翌月より1年間

お問い合わせ：東京佼成ウインドオーケストラ事務局 賛助会担当 FAX:03-5341-1255 MAIL:patronage@tkwo.jp

賛助会員の皆さま

五十音順、敬称略で掲載させていただいております。(2024年9月1日現在)

法人会員

特別会員 (株)佼成出版社 匿名1名

維持会員 エーユーツーリスト((株)アコード) 名古屋 宗次ホール
(株)ビルドエスアンドアール

賛助会員 株式会社アシストジャパン アトリエ・エム株式会社
遠藤製作所 遠藤悦治 海鮮食堂余市の仲間達
株式会社CAFUAレコード 管楽器専門店ダク
株式会社サンテックピオズ 鈴木住地(有)
株式会社全音楽譜出版社 立花産業(株)
中央鉄鋼 有限会社 フォスターミュージック株式会社
株式会社プリマ楽器 みずほ証券株式会社
柳澤管楽器株式会社

個人会員

特別会員 アイちゃん 天野 正道 加賀美 猛 菅野 泰正
田中 淳子 林 正作 久末とまこ 古沢 秀明
ミーゴ 山内 幸人

匿名6名

維持会員：156名 / 賛助会員：91名



SUPPORTERS CLUB

東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

会員
募集中

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)を応援したい仲間が集まるファンクラブです。

TKWOをもっと身近で特別な存在に♪

サポーターズクラブへ入会して、一緒にTKWOを盛り上げていきましょう!



詳細はこちら

PR Supporters PRサポーターの皆さま

敬称略で掲載させていただいております。(2024年9月1日現在)

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

▼店舗等一覧

アルル音楽教室
(株)コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター
ブレーン(株) 広島本社
ブレーン(株) 東京支社
(株)管楽器専門店ダク
ミュージックスクール「ダ・カーポ」
(株)セントラル楽器
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎
管楽器雑貨専門店pitch
ザクラリネットショップ
(株)ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京
(株)永江楽器水戸
野中貿易(株)
ヤマハミュージック 横浜みなとみらい
株式会社 池袋音楽学院
株式会社CAFUAレコード
大江戸シンフォニックウインドオーケストラ
ドレミファクトリー
フルート専門店 テオバルト
アトリエ・エム株式会社
イシバシ楽器 横浜店

フォルテ・オクターヴハウス
管楽器専門店ウィンズスタイル
フォスターミュージック株式会社
金管楽器修理調整 浅香工房
葡萄房 by THE CAMEL
吹奏楽酒場「宝島。」
金寿司
フローリスト花六
中華 大栴
海鮮食堂余市
おぐセンター
ワイン酒場トンマーズ
小林メディカルファミリー薬局
天ふじ
立花産業株式会社
方南町 共立薬局
御菓子司 大和や
栄進社クリーニング

▼個人のお客様

渡邊 直子
樫野 哲也東京佼成ウインドオーケストラでは
PRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか?
ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集して
おります。(個人も含む)ご協力いただける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・
オフィシャルサイトに掲載させていただきます。



TKWO Concert Schedule

東京佼成ウインドオーケストラ 公演情報

第167回 定期演奏会 マスランカ・チクルス Vol.2

2025年 1月11日[土] 開演18:30(開場17:45)

会場：なかのZERO 大ホール

指揮 大井剛史 (常任指揮者)

ピアノ 鈴木 慎崇* 語り チャールズ・グラバー*

●ブレスク風ロンド(1972年委嘱作品)/伊福部 昭

●交響曲第9番*/D.マスランカ



@Ayane Shindo

[1回券]一般 5,000円/U25 2,500円 発売日:会員先行 2024年9月24日(火)/一般発売 2024年9月30日(月)

ファンタスティック☆クリスマス2024

2024年 12月17日[火] 開演19:00(開場18:15)

会場：東京オペラシティ

コンサートホール:タケミツメモリアル

指揮 大井剛史 (常任指揮者)

ゲスト 沼尾みゆき(歌)
ジェイコブ・コーラー(ピアノ)

S席ペア(限定100組) 11,000円/S席 7,000円/A席 5,000円/B席 4,000円/U25 3,000円

好評発売中

特別演奏会 ～初代常任指揮者汐澤安彦を迎えて～

2025年 2月17日[月] 開演19:00(開場18:15)

会場：東京オペラシティ

コンサートホール:タケミツメモリアル

指揮 汐澤安彦

課題曲コンサート2025

2025年 3月27日[木] 開演19:00(開場18:15)

会場：サントリーホール 大ホール

指揮 大井剛史 (常任指揮者)

※全席指定・税込 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。※出演者、曲目、時間等は変更にある場合がございます。
※会員先行は定期会員・サポーターズクラブ会員対象。

Original goods

TKWO オリジナルグッズ

好評
発売中

ほかにも多くの商品をご用意しております。
ご購入・詳細はこちら▶



Tシャツ



ネイビー

ブラック

ホワイト

リングノート



トートバッグ



アクリルキーホルダー



缶バッチ



クリアファイル



東京佼成ウインド
オーケストラ60年史



NONAKA いい楽器をあなたのもとへ
www.nonaka.com



総輸入元 野中貿易株式会社 総発売元/製造元 株式会社ノナカ 〒231-0011 横浜市中区太田町4-46



KOSEIレーベルを 音楽配信サービスで

iTunes、Apple Music、Spotify、Amazon Music、LINE MUSICを
はじめとする各音楽配信サービスにて1000曲を超える楽曲を好評配信中！
1979年の初リリース以降、ポジティブに、かつ体系的に送り出されたコンテンツは、
質・量ともに他の追従を許さない。世界に類例を見ない吹奏楽曲の数々を配信で！

主な配信サービス



iTunes



Spotify



Amazon Music



LINE MUSIC

LINE MUSIC

株式会社 佼成出版社
〒166-8535 東京都杉並区和田2丁目7-1 普門メディアセンター
03-5385-2311(代表)

電子書籍ECサイト
ちえうみ



人の手が創りだす最高のために。

YAMAHA
Make Waves



ヤマハフルートの、新たなる到達点。

Handmade Flutes

Idéal
— イデアル —



Ayako Maeda
Plays Idéal
YFL-887

前田 綾子
東京佼成ウインドオーケストラ

●お問い合わせ 【お客様コミュニケーションセンター 管弦打楽器 ご相談窓口】
フリーダイヤル TEL.0120-132-808
携帯電話、IP電話からは 050-3852-4087へおかけください。
受付時間：月曜日～金曜日 10:00～17:00(祝日、センター指定休日を除く)

株式会社ヤマハミュージックジャパン